

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武		整理番号	1
基本施策	1	農業の振興	評価	産業振興課長 横田 和幸	
単位施策	1	土地基盤の充実	責任者		

1 施策の概要

基本方針	関係機関と連携しながら、かんがい排水や草地更新など土地利用の基盤整備を円滑に推進するとともに、こうした土地基盤を適切に維持管理します。また、担い手への農地集積を誘導します。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）			
	開畑、離農跡地の取得により経営規模の拡大を図りながら、大規模酪農地帯と発展してきたが、地区内の農地は小区画で分散が著しく、低利用地や耕作放棄地の発生に繋がっている。	道営事業や公社営事業等の補助事業を活用し、計画的に土地基盤の整備を行ってきたが、地区内の農地は小区画で分散が著しく、低利用地や耕作放棄地の発生に繋がっている。一方で、耕作放棄地対策協議会や民間企業による耕作放棄地の再生に向けた取組みが進められている。			
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）			
	農家の高齢化・担い手不足から耕作放棄地の増加が懸念されることから、改正農地法等の適正な運用を通じ担い手の育成・確保や耕作放棄地の未然防止などに努め、農地の利用集積を図ることが必要である。	耕作放棄地の解消が一部で図られつつあるが、耕作放棄地の恐れのある農地は増加傾向にあり、担い手の育成や農地の集約化など、引き続き検討課題である。			

2 基本施策指標

指標1	指標名	農業生産額					
	定義等	全農家の農業生産額					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		38億円	50億円	51億円	53億円	45億円
指標2	指標名	生乳生産量					
	定義等	全農家の生乳生産量					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		36,628t	38,582t	37,651t	36,802t	40,000 t
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	水利施設整備事業（基幹水利施設整備型）雄武中央地区	農務係	6,959	A	終了	A
②	枝幸南部地区国営総合農地開発事業償還負担金	農務係	4,843	B	継続/現状維持	B
③	営農用水施設維持管理事業	農務係	6,138	A	継続/現状維持	A
④	基幹水利施設管理事業	農務係	28,135	A	継続/現状維持	A
⑤	農地整備事業（畑地帯担い手支援型）	農務係	37,639	A	継続/現状維持	A
⑥	団体営かんがい排水事業	農務係	19,859	A	継続/現状維持	A
⑦	水土里情報システム活用事業	農務係	897	A	継続/現状維持	A
⑧	国営緊急農地再編整備事業雄武丘陵地区	農務係	0	A	継続/現状維持	A
⑨	農業振興地域整備計画管理事業	農務係	1,415	A	継続/現状維持	A
⑩	水土里情報システム活用事業	農地係	103	A	継続/現状維持	A
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	農業の振興を図るうえで土地基盤整備等は、農業の生産額を上げるための根幹をなしていることから、必要な施策である。
② 有効性	A	本施策により計画的に基盤整備が進められ、生産性の向上に繋がっていることから有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	土地基盤整備事業等の各種施策については、国・道と町の負担割合が定められており、より事業の効率化を図りながら、事業費の削減に努めている。
④ 公平性	A	農業振興上の施策ではあるが、地域の活性化を図る上で、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	土地基盤整備の各種施策の実施にあたっては、関係機関や受益者との協議等により反映している。また、規模の大きな事業等においては受益者を対象としたアンケート調査を実施している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
農業は町の基幹産業であり、特に土地の基盤整備については、今後とも重要な施策として必要不可欠である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
今後とも一層の土地基盤整備の充実が、地域の生産額向上につながるため、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	2
基本施策	1	農業の振興	評価 責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	2	担い手（人・組織）の強化		

1 施策の概要

基本方針	農業後継者を育成・確保し、作業効率化により営農を強化するために、新規就農支援や、酪農ヘルパーの強化、預託飼養の推進、コントラクター組織の育成、TMRセンターの設置、さらには農業生産法人など中核的な担い手の育成などを働きかけていきます。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	農家戸数の減少や高齢化が進行する中、本町農業の安定的な発展や地域社会の活性化を図るために、農業経営の体質強化と安定化に向けた担い手への各種支援を行っている。	農家戸数の減少や高齢化が進行する中、本町農業の安定的な発展や地域社会の活性化を図るために、農業経営の体質強化と安定化に向けた担い手への各種支援を行っている。また、農協において担い手専用住宅の建設が進められ、道と町が連携し支援を行っている。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	後継者はもとより他分野からの新規参入者の受け入れを図るなど、意欲と能力のある多様な人材を育成・確保し、効率的かつ安定的な農業経営体である認定農業者や農業生産法人等の中核的な担い手を育成する必要がある。また、TMRセンターの設置についても引き続き検討課題である。	後継者はもとより他分野からの新規参入者の受け入れを図るなど、意欲と能力のある多様な人材を育成・確保し、効率的かつ安定的な農業経営体である認定農業者や農業生産法人等の中核的な担い手を育成する必要がある。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	農家戸数（生乳出荷）						
	定義等	搾乳農家戸数						
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値			66戸	63戸	61戸	58戸	66戸
指標2	指標名	後継者対策・酪農体験の実習生年間受入人数						
	定義等	年間の酪農体験受入人数						
	年度			平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値			0人	3人	7人	8人	2人(H25～29平均)
指標3	指標名	新規就農戸数						
	定義等	新規就農戸数						
	年度			平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値			0戸	0戸	0戸	0戸	2戸(H25～29)
指標4	指標名	農業生産法人						
	定義等	農業生産法人数						
	年度			平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値			4法人	5法人	6法人	6法人	5法人
指標5	指標名							
	定義等							
	年度			平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度			平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度			平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	利子補給補助事業	農務係	3,906	A	継続/現状維持	A
②	酪農ヘルパー制度強化推進事業	農務係	3,000	A	継続/現状維持	A
③	農業経営改善促進事業	農務係	0	A	継続/現状維持	A
④	新規就農者支援事業	農務係	24,666	B	継続/現状維持	B
⑤	雄武町農業後継者対策事業	農地係	250	B	継続/現状維持	B
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	担い手育成強化のための施策は搾乳農家戸数の維持や農業生産額の増大など、町の農業の振興を図る上で必要な施策である。
② 有効性	B	本施策により作業の効率化や農家負担の軽減が図られており、生産性の高い経営基盤の確立を進めているが、後継者不足の解決や新規就農には至っていない。
③ 効率性	A	本施策を構成する事務事業においては、道と町の負担割合が定められているものや受益者負担が決められているものがあり、施策目的に沿って効率的な推進が図られている。
④ 公平性	A	受益者は農家に限られるが、各施策実施における農業経営基盤の安定は、農業の振興上必要なものであり、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	担い手育成のための施策は、関係機関との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
農業経営における運営資金の負担軽減や経営環境の改善が図られており、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
農家に対する負担軽減対策や担い手対策は、農業の振興を図る上で必要不可欠であり、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	3
基本施策	1	農業の振興	評価責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	3	生産技術の向上		

1 施策の概要

基本方針	農業改良普及センターなどと連携し、酪農経営について、適切な飼料給与や、飼養管理技術の改善、優良雌牛判別生産など、生産技術向上の取り組みを進めます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	牧草やデントコーンの生育状況調査や突発的な気象災害等に対する被害調査を関係機関と連携しながら実施し、また、搾乳やほ乳の自動化等営農技術対策の樹立や営農指導の徹底を図っている。	牧草やデントコーンの生育状況調査や突発的な気象災害等に対する被害調査を関係機関と連携しながら実施し、また、飼養管理技術の改善や営農指導の徹底を図っている。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	地域の課題に対する研究や開発された新技術の生産現場への普及を速やかに図る体制を整備する必要がある。また、優良雌牛判別生産技術等具体策により、効率的な生乳生産に努める必要もある。	地域の課題に対する研究や開発された新技術の生産現場への普及を速やかに図る体制を整備する必要がある。また、自給飼料確保のための植生改善及び優良雌牛判別生産技術等具体策により、効率的な生乳生産に努める必要もある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	農業生産額						
	定義等	全農家の農業生産額						
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値							45億円
実績値			38億円	50億円	51億円	53億円		
指標2	指標名	生乳生産量						
	定義等	全農家の生乳生産量						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値						40,000 t	
実績値		36,628t	38,582t	37,651t	36,802t			
指標3	指標名							
	定義等							
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値							
実績値								
指標4	指標名							
	定義等							
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値							
実績値								
指標5	指標名							
	定義等							
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値							
実績値								
指標6	指標名							
	定義等							
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値							
実績値								
指標7	指標名							
	定義等							
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	目標値							
実績値								

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	畜産指導者育成事業	農務係	0	B	継続/現状維持	B
②	農業生産拡大緊急対策事業	農務係	3,513	B	継続/現状維持	A
③	農業経営改善等緊急対策事業	農務係	8,439	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	専門知識の習得、生産技術の向上及び情報の共有は、農業の振興を図る上で必要な施策である。
② 有効性	A	本施策の実施により、現状の課題に対する対応策の検討がなされており、生産技術の向上が図られていることから、有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	本施策については、構成する事務事業により効率的に実施されており、施策目的に沿った推進が図られている。
④ 公平性	A	本施策により検討された課題等における対応策は、農家にすべて還元されるものであり、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	関係機関との協議等により、生産技術の向上等に関する施策に反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
各関係機関において、現状の課題に対する対応策の共有がなされており、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
生産技術の向上は、地域農業経営の安定化を図る上でも必要不可欠であり、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	4
基本施策	1	農業の振興	評価 責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	4	安全・安心な農業の振興		

1 施策の概要

基本方針	農業者・農業団体と連携しながら、家畜排せつ物の処理、使用済み農業用資材適正回収、搾乳施設からの排水の処理を徹底するとともに、漁業・水産加工業と連携した環境保全対策を推進します。さらに、農場HACCPなど、農畜産物の生産・加工・流通の各段階におけるリスク管理を徹底します。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	酪農業を安定的に発展させるため、「土-草-牛」の循環を基本とした資源循環型酪農・畜産の確立を推進している。	持続可能な農業を展開するために、環境への十分な配慮をしながら、家畜排せつ物の有効利用を図っている。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	家畜伝染病の発生に備えるため、危機管理体制の強化と効率的な防疫体制が求められている。また、搾乳を行うパーラー施設からの排水量が増加し、新たな汚水処理が必要となっている。	家畜伝染病の発生に備えるため、危機管理体制の強化と効率的な防疫体制が求められている。また、搾乳を行うパーラー施設からの排水量が増加し、新たな汚水処理が必要となっている。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	農業生産額					
	定義等	全農家の農業生産額					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		38億円	50億円	51億円	53億円	45億円
指標2	指標名	生乳生産量					
	定義等	全農家の生乳生産量					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		36,628t	38,582t	37,651t	36,802t	40,000 t
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	太陽光発電システム導入事業	農務係	0	B	継続/現状維持	B
②	【再掲】中山間地域直接支払制度	農務係	93,265	A	継続/現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	本施策により環境対策が図られることと、再生エネルギーの活用により経営コストの削減が図られることから、必要な施策である。
② 有効性	A	本施策により、環境対策が図られることから循環型農業の確立がなされることから、有効な施策と判断する。
③ 効率性	B	本施策は効率的に実施されており、施策目的に沿った推進が図られているが、再生エネルギーの活用については、調査・研究段階であり、今後、検討を進める必要がある。
④ 公平性	A	本施策により環境保全対策が向上し、町民の理解が得られることから公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	関係機関や受益農家との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
本施策の実施により循環型農業の推進が展開されており、環境保全が保たれている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
安全・安心な農業の振興は、今後もより強く求められることから、今後も継続して実施する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	5
基本施策	1	農業の振興	評価 責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	5	農業による地域の活性化		

1 施策の概要

基本方針	加工品の企画・開発を進めるとともに、直売・ネット販売の強化や、学校給食、イベントでの地産地消の拡大などにより、雄武産農畜産物のブランド力を底上げします。快適な農村環境づくりを進めるとともに、グリーン・ツーリズムの振興をめざし、農業体験の受け皿づくりを進めます。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	畑作転換への試験的な取組みとして、気候風土に適した作物（タッタンソバやカラフト豆）の試験栽培を実施し、加工品の企画・開発を進めている。また、そば打ち講習会を開催しタッタンソバの普及を図っている。	畑作転換への試験的な取組みとしてタッタンソバの試験栽培を進めてきたが、一定の収量を確保することが実証され、民間企業により本格的な栽培が進められている。また、少子高齢化及び過疎化等により、農業に関する共用の設備の維持管理に支障が生じ始めている。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	農業を核とした個性豊かな地域活性化に向け、農地や農業用水等の地域資源の適切な保全活動に対する支援を行って農業に対する理解を深めるとともに、これら資源を活用した農村活性化、さらには6次産業化等の取組みを促進する必要がある。	地域の活性化に向けた、新たな付加価値を高めた製品の開発や農業を支える農道等の共用設備を維持管理するための共同作業を支援する取組みが必要となっている。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	後継者対策・酪農体験の実習生年間受入人数						
	定義等	年間の酪農体験受入人数						
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値			0人	3人	7人	8人	2人(H25～29平均)
指標2	指標名	新規就農戸数						
	定義等	新規就農戸数						
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値			0戸	0戸	0戸	0戸	2戸(H25～29)
指標3	指標名	農業生産法人						
	定義等	農業生産法人数						
	年度	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	実績値		4法人	5法人	6法人	6法人	5法人	
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	中山間地域等直接支払制度	農務係	93,265	A	継続/現状維持	A
②	農畜産物を活用した食品の開発調査推進事業	農務係	0	B	継続/現状維持	B
③	畜産担い手育成総合整備事業（再編整備型事業）	農務係	12,903	A	終了	A
④	集会施設改修等整備事業	農務係	全額繰越	A	継続/現状維持	A
⑤	多面的機能支払制度	農務係	3,991	B	継続/現状維持	A
⑥	農地台帳システム整備事業	農地係	3,564	A	終了	A
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	農業による地域の活性化を図るためには、雄武産農畜産物のブランド力の底上げ等の取り組みは必要不可欠である。
② 有効性	A	本施策の実施により地域の活性化が図られるので、有効な施策と判断する。
③ 効率性	B	本施策については、構成する事務事業により効率的に実施されており、概ね施策目的に沿った推進が図られているが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善する必要がある。
④ 公平性	A	雄武産農畜産物のブランド力の底上げや快適な農村環境づくりを進めるものであり、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	関係機関や受益農家との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
一部民間において乳製品等の直販は行われているが、雄武産農畜産物のブランド力の底上げには至っていない。 地域の活性化のため、集落の共同活動に対する支援を行うことができた。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
民間において商品開発や研修牧場の構想があるので、情報収集に努め新たな展開を模索したい。 地域の共同活動に対する支援を継続し、地域資源の適切な保全を図る。また、農業・農村が有する多面的機能が適切に発揮できるよう支援を行う必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	6
基本施策	2	林業の振興	評価 責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	1	生産体制の強化		

1 施策の概要

基本方針	福利厚生面への支援などによる担い手の確保や、機械化等による一層の作業合理化、木材生産・搬出に欠かせない林道網の整備、クマ、シカ等による林業被害を抑制する取り組みを進め、造林、下刈り、間伐など、計画的な保育と、原木・チップなどの生産を働きかけていきます。また、町内林家の森林認証の取得を促進するとともに、住宅や公共施設での地元産材の普及に努めます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	国内の林業が低迷する中、本町においても、素材生産・出荷は僅かであったが、平成23年度に森林認証を取得するなど、地域材の利用・促進に向けた取り組みを行っており、将来的な素材生産・出荷の拡大に向けて取り組んでいる。	国内の林業が低迷する中、本町においても、素材生産・出荷は僅かであったが、西紋地域が一体となって森林認証を取得するなど、地域材の利用・促進に向けた取り組みを行っている。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	本町の人工林資源は利用段階を迎えているが、木材を搬出するための、路網整備が遅れており、早急な整備が必要となっている。また、担い手の減少や高齢化も課題となっている。	本町の人工林資源は利用段階を迎えているが、木材を搬出するための、路網整備が遅れている。また、担い手の減少や高齢化、未利用間伐材の有効利用が課題となっている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	町有林・民有林の人工造林面積					
	定義等	町有林・民有林の人工造林面積					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		50.1ha	85.2ha	93.4ha	105.5ha	70ha(H25~29平均)
指標2	指標名	町有林・民有林の除間伐面積					
	定義等	町有林・民有林の除間伐面積					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		225.5ha	215ha	205.2ha	135.3ha	400ha(H25~29平均)
指標3	指標名	森林作業員数					
	定義等	森林作業員数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		26人	18人	17人	14人	26人
指標4	指標名	町有林の素材売払金額					
	定義等	町有林の素材売払金額（年間）					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		850万円	1,039万円	1,141万円	934万円	1,000万円
指標5	指標名	森林認証取得面積					
	定義等	SGEC森林認証取得面積					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		5,288ha	5,288ha	5,288ha	5,288ha	10,000ha
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	町有林除間伐事業	林務係	17,809	A	継続/現状維持	A
②	未来につなぐ森づくり推進事業	林務係	9,621	B	継続/現状維持	B
③	森林認証取得管理事業	林務係	95	A	継続/現状維持	A
④	町有林造林事業	林務係	4,444	A	継続/現状維持	A
⑤	森林整備推進事業	林務係	2,092	A	継続/現状維持	A
⑥	町有林下刈事業	林務係	3,072	A	継続/現状維持	A
⑦	森づくり循環促進事業	林務係	865	B	継続/現状維持	B
⑧	町有林路網整備事業	林務係	59,615	A	継続/現状維持	A
⑨	森林整備担い手対策推進事業	林務係	370	B	継続/現状維持	A
⑩	林業担い手対策事業	林務係	91	B	継続/現状維持	A
⑪	野ねずみ駆除事業	林務係	122	A	継続/現状維持	A
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	造林、下刈、間伐などの森林施業を計画的に推進するためには、路網の整備など生産体制の強化が不可欠であり、必要な施策である。
② 有効性	A	本施策の生産体制の強化に伴って、森林の社会的価値を高めることや林業の振興につながることから、有効な施策と判断する。
③ 効率性	B	本施策については、構成する事務事業により概ね効率的に実施されており、施策目的に沿った推進が図られている。
④ 公平性	A	森林が持つ公益的機能の恩恵を誰もが享受しているため、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	林業の生産体制の強化に係る施策は、関係機関との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
本施策により、生産体制の強化が図られており、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
適切な森林施業を行うことが、生産体制の強化や環境の保全につながるため、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	7
基本施策	2	林業の振興	評価責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	2	多面的機能の発揮		

1 施策の概要

基本方針	町内森林の多面的機能を生かせるため、魚つきの森の育成などによる上下流の生態系循環の確保や、水源涵養・災害防止につながる治山事業の推進、森林体験の拡大、特用林産物やバイオマスの研究、カーボン・オフセットの研究などを進めます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	森林を適切に維持管理することによって、土砂の流出防止や水源の涵養など森林の多面的機能が高度に発揮されるよう、北の魚つきの森等の整備を進め、環境保全を行っている。	土砂の流出防止や水源の涵養など、森林の多面的機能が高度に発揮できるよう、適切な森林整備を進めている。また、さけ等が遡上する幌内川流域の山林原野の一部を購入し、流域の環境保全を行っている。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	恒常化しつつあるクマ、シカ等野生動物による被害等により、森林の多面的機能の発揮に支障をきたしており、これらを抑制する効果的な対策が必要となっている。	恒常化しつつあるクマ、シカ等野生動物による被害等により、森林の多面的機能の発揮に支障をきたしており、これらを抑制する効果的な対策が必要となっている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	町有林・民有林の人工造林面積					
	定義等	町有林・民有林の人工造林面積					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		50.1ha	85.2ha	93.4ha	105.5ha	70ha(H25~29平均)
指標2	指標名	町有林・民有林の除間伐面積					
	定義等	町有林・民有林の除間伐面積					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		225.5ha	215ha	205.2ha	135.3ha	400ha(H25~29平均)
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	北の魚つきの森環境整備事業	林務係	19,735	A	継続/現状維持	A
②	町有保安林更新事業	林務係	3,763	A	継続/現状維持	A
③	生活環境保全林維持管理事業	林務係	2,433	A	継続/現状維持	A
④	林道維持管理事業	林務係	3,240	A	継続/現状維持	A
⑤	みどりと親しむ町民のつどい	林務係	1,124	A	継続/現状維持	A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	民有林の多面的機能を発揮させるためには、森林整備や適切な維持管理が不可欠であり、必要な施策である。
② 有効性	A	本施策により水源の涵養や環境保全等の多面的機能の発揮が図られるので、有効な施策と判断する。
③ 効率性	B	本施策については、構成する事務事業により効率的に実施されており、概ね施策目的に沿った推進が図られているが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善する必要がある。
④ 公平性	A	森林が持つ公益的機能の恩恵を誰もが享受しているので、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	多面的機能の発揮に係る施策は、関係機関との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
幌内川流域の環境保全や治山事業（保安林改良）の実施により、森林の多面的機能の発揮が図られたが、バイオマスやカーボン・オフセットの研究には至らなかった。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
豊富な森林資源を有する本町の山林を適切に維持管理することが、森林の多面的機能の発揮につながるため、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	8
基本施策	3	水産業の振興	評価責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	1	水産資源の保護・増大		

1 施策の概要

基本方針	漁協などと連携しながら、貝殻散布や有害生物駆除などによるホタテ漁場の安定化、藻場造成による餌料環境の向上を図り、コンブ、ウニや根付魚類など水産資源の増大を図ります。また、カニ類などの資源管理を徹底するとともに、サケ・マスの回帰率向上、ナマコの増殖試験調査、オニシ湖でのしじみ貝増産に向けた取り組みを進めます。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	ほたて漁場・中間育成施設の再編整備が完了し、漁獲の安定・増産が期待されている。また、サケ・マスの心化放流事業やウニ増殖場の整備による資源の増大、毛ガニ、ナマコ、ウニ等の適正な資源管理についての取組みも継続して実施している。近年は、元稲府漁港内を活用したナマコ増殖試験調査やオニシ湖でのしじみ貝増産に向けた取組み等が進められている。	ホタテの漁場の安定化のほか、サケ・マスの心化放流事業やウニ増殖場の整備による資源の増大、毛ガニ、ナマコ、ウニ等の適正な資源管理についての取組みも継続して実施している。近年は、元稲府漁港内を活用したナマコ増殖試験調査やオニシ湖でのしじみ貝増産に向けた取組み等が進められている。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	次世代においても安定した生産体制の確立を図るため、試験研究機関とも連携しながら、増養殖技術の向上や漁場環境の保全対策及び環境変化に対応した資源管理を推進することが必要である。	将来に向けて安定した生産体制を確立するため、試験研究機関とも連携しながら、漁業者自らが行う増養殖技術の向上や漁場環境の保全対策及び環境変化に対応した資源管理を継続することが必要である。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	漁業生産額					
	定義等	年間の漁獲金額					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値					50億円(H25~29平均)	
	実績値		56.9億円	36.1億円	63.3億円	64.2億円	
指標2	指標名	ホタテ生産量					
	定義等	年間のホタテ水揚量					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値					18,000t(H25~29平均)	
	実績値		13,258t	9,505t	15,376t	16,170t	
指標3	指標名	サケ・マス漁獲量					
	定義等	年間のサケ・マス漁獲量					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値					3,500t(H25~29平均)	
	実績値		2,957t	2,404t	3,390t	3,737t	
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	水産環境整備事業	水産係	5,336	A	継続/現状維持	A
②	ほたて健苗稚貝放流用機器導入事業	水産係	19,375	A	終了	A
③	ほたて漁場有害生物駆除対策事業	水産係	5,000	A	継続/現状維持	A
④	ほたて漁場貝殻散布事業	水産係	2,000	A	継続/現状維持	A
⑤	しじみ貝増産事業	水産係	288	B	継続/現状維持	A
⑥	なまこ増養殖事業	水産係	900	A	継続/現状維持	A
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	つくり育てる漁業を推進し、水産資源の保護・増大を図ることは、漁業生産額の増大につながるものであり、水産業の振興のためには、最重要施策である。
② 有効性	A	構成する事務事業が計画的に進められており、基本施策指標値の達成に向けての効果が表れている。
③ 効率性	A	大学・試験研究機関など関係機関との連携のほか、漁業者自らが既存環境や資材等を有効利用し、効率的な事業展開を図っている。
④ 公平性	A	受益者分担金の徴収や事業実施主体に対し、事業内容に見合った適正な補助を行っているなど、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	水産資源の保護・増大に係る施策は、関係機関や漁業者との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
ホタテ・サケの資源増大に向けた取組みや毛ガニ等の資源保護の取組みに加え、主要魚種外の安定生産に目を向けた事業展開が積極的に実施されている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
「つくり育てる漁業」の推進は、現在の水産業振興の基軸となるものであり、地域経済全体の影響力も大きいことから、水産資源の保護・増大に関する施策が必要であり、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	9
基本施策	3	水産業の振興	評価 責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	2	経営基盤の強化		

1 施策の概要

基本方針	漁協などと連携し、制度融資など経営体の経営安定につながる取り組みを進めます。安全で安定した操業、生産性向上、さらにはHACCPへの対応を図るため、国・道と連携しながら、雄武漁港、元稲府漁港の衛生管理型漁港施設や荷さばき施設などの関連施設の整備、沢木漁港、幌内漁港については、生産拠点漁港として機能強化を図り、漁業生産性の向上・安全操業に向けた整備を進めます。また、海難事故防止対策を充実するとともに、遊漁との共存ルールを徹底します。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	水産業全体の経営基盤強化を図るため、各種支援対策を実施しているほか、各漁港におけるそれぞれの機能性に合わせた整備を行っている。	水産業全体の経営基盤強化を図るため、各種支援対策を実施しているほか、各漁港におけるそれぞれの機能性に合わせた整備を行っている。また、衛生管理型漁港整備が進められており、幌内漁港も機能強化に向けて整備される計画となっている。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	生産・流通の拠点となる漁港整備の進捗が鈍化しており、整備の促進が必要である。また、水産加工業においては、水産廃棄物処理に対する取り組みを強化するなど、処理コストの低減・環境保全対策の強化による経営基盤の強化を図る必要がある。	安全操業のための漁港内外の静穏対策や衛生管理施設の充実など、漁港の整備促進が必要である。また、水産加工業においては、水産廃棄物処理に対する取り組みを強化するなど、処理コストの低減や環境保全対策の強化による経営基盤の強化を図る必要がある。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	漁業生産額					
	定義等	年間の漁獲金額					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		56.9億円	36.1億円	63.3億円	64.2億円	50億円(H25~29平均)
指標2	指標名	ホタテ生産量					
	定義等	年間のホタテ水揚量					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		13,258t	9,505t	15,376t	16,170t	18,000t(H25~29平均)
指標3	指標名	サケ・マス漁獲量					
	定義等	年間のサケ・マス漁獲量					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		2,957t	2,404t	3,390t	3,737t	3,500t(H25~29平均)
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	雄武地区（雄武漁港）水産流通基盤整備事業	水産係	60,711	A	継続／現状維持	A
②	水産物供給基盤機能保全事業	水産係	12,000	A	継続／現状維持	A
③	水産廃棄物処理料軽減対策事業	水産係	6,234	A	継続／現状維持	A
④	水産廃棄物処理緊急改善対策事業資金利子補給事業	水産係	1,791	B	継続／現状維持	A
⑤	漁業近代化資金利子補給事業	水産係	1,888	A	継続／現状維持	A
⑥	漁業経営健全化促進資金利子補給事業	水産係	209	A	継続／現状維持	A
⑦	救難所整備事業	水産係	100	A	継続／現状維持	A
⑧	不要魚礁撤去事業	水産係	0	A	継続／拡充	A
⑨	幌内地区（幌内漁港）水産生産基盤整備事業	水産係	2,479	A	継続／現状維持	A
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	水産業は町の基幹産業であり、関連産業への波及効果も大きく、地域経済の活性化を推進する上で、経営基盤の強化を図ることが必要である。
② 有効性	A	構成する事務事業が計画的に進められており、基本施策指標値の達成に向けての効果が表れている。
③ 効率性	A	国・道などの関係機関に対し、漁協や関係者と連携しながら事業優先度に応じたインフラ整備の協議を進めており、効率的な事業推進を図っている。
④ 公平性	A	受益者分担金の徴収や事業実施主体に対し、事業内容に見合った適正な補助を行っているなど、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	経営基盤の強化に係る施策は、関係機関や漁業者との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
水産業は町の基幹産業であり、関連産業への波及効果も大きく、その根幹を成す経営基盤の強化を図ることは、地域経済全体の活性化につながるものである。	同 左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
地域経済の振興を図るためには、経営基盤の強化施策が必要であり、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	10
基本施策	3	水産業の振興	評 価 責 任 者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	3	消費・流通対策の拡大		

1 施策の概要

基本方針	地域が一体となって、水揚げから加工、流通に至る衛生管理や鮮度・品質の保持を進め、雄武ブランドの付加価値を高めます。また、サケの白子など低利用資源による加工品の開発や効果的な販売戦略を創意・工夫し、消費の拡大につなげます。さらに、漁業・水産加工の公開や体験など、マリン・ツーリズムを展開していきます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	漁協・水産加工協を中心にブランド化の取組みが進み、秋サケ（メジカ、雄宝）、モカニ、ホタテ、コンブ、タコ等が市場で高く評価され魚価・製品の価格向上につながっている。また、販売についても地元直販店やネット販売を展開するほか、道内外での展示即売・商談会など市場拡大に取り組んでいる。	漁協・水産加工協を中心にブランド化の取組みや衛生管理の徹底が進み、秋サケ（メジカ、雄宝）、モカニ、ホタテ、コンブ、タコ等が市場で高く評価され魚価・製品の価格向上につながっている。また、販売についても地元直販店やネット販売を展開するほか、道内外での展示即売・商談会など市場拡大に取り組んでいる。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	雄武ブランドの更なる付加価値の向上のため、海外輸出も視野に入れた衛生管理体制の強化、6次産業化の推進を図ることが必要である。	雄武ブランドの更なる付加価値の向上のため、海外輸出も視野に入れた衛生管理体制の強化、6次産業化のほか、低利用資源を有効活用した商品化に向けた具体的な検討などを進めることが必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	漁業生産額					
	定義等	年間の漁獲金額					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						50億円(H25~29平均)
	実績値		56.9億円	36.1億円	63.3億円	64.2億円	
指標2	指標名	ホタテ生産量					
	定義等	年間のホタテ水揚量					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						18,000t(H25~29平均)
	実績値		13,258t	9,505t	15,376t	16,170t	
指標3	指標名	サケ・マス漁獲量					
	定義等	年間のサケ・マス漁獲量					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						3,500t(H25~29平均)
	実績値		2,957t	2,404t	3,390t	3,737t	
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	低利用水産資源加工試験開発事業	水産係	0	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】雄武地区(雄武漁港)水産流通基盤整備事業	水産係	60,711	A	継続/現状維持	A
③	【再掲】水産物供給基盤機能保全事業	水産係	12,000	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	水産業は町の基幹産業であり、水産加工業をはじめとした関連産業への波及効果も大きく、地域経済の活性化を推進する上で、消費・流通対策の拡大を図ることが必要である。
② 有効性	A	構成する事務事業が計画的に進められており、基本施策指標値の達成に向けての効果が表れている。
③ 効率性	A	マリンビジョンの推進など、農林水産業及び商工観光関係者が連携し、地域が一体となった取組みを進めており、効率的に進められている。
④ 公平性	A	受益者分担金の徴収や事業実施主体に対し、事業内容に見合った適正な補助を行っているなど、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	消費・流通対策の拡大に係る施策は、関係機関や漁業者との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
水産業の振興を図る上で、消費・流通対策は生命線の役割を担っており、雄武ブランドの推進による効果も大きいことから、地域経済全体の活性化につながるものである。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持
水産業は町の基幹産業の一つであり、水産加工業をはじめとした関連産業への波及効果も大きく、地域経済の振興を図るためには、消費・流通対策の拡大に関する施策が必要であり、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左

* 今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武		整理番号	11
基本施策	4	商工業の振興	評価	産業振興課長 横田 和幸	
単位施策	1	事業所の体力づくりへの支援	責任者		

1 施策の概要

基本方針	商工会等と連携し、町内企業の技術開発や情報化・近代化、環境対策などへの指導や経済的支援を進めます。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）		【現状】（平成26年度末）		
	商業においては、大型小売店への消費流出や域内人口の減少が一段と進んでいる。製造業においては、燃料価格の高騰など経営環境は厳しいことから、経営の安定対策として融資制度による支援を行っている。また、水産加工品の海外需要拡大など明るい材料もみられる。		商業においては、大型小売店への消費流出や域内人口の減少が一段と進んでいる。製造業においては、燃料価格の高騰など、経営環境が厳しいことから、経営の安定対策として融資制度による支援を行っている。また、生産性向上等を旨とした施設改修等の助成活用が活発化している。		
	【課題】（平成23年度末）		【課題】（平成26年度末）		
	商業においては空き店舗対策や、製造業においては、より一層の付加価値を高めた雄武ブランドの確立、建設業においては、異業種への進出を加速させる必要がある。		商業においては、町内での購買意欲向上や廃業による空き店舗対策が必要である。また、製造業においては、より一層の付加価値を高めた雄武ブランドの確立を目指す必要がある。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	製造品出荷額（食料品＋その他）					
	定義等	工業統計による製造品出荷額					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		135億円	116億円	140億円	（未公表）	150億円
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	商工業振興事業	商工観光係	10,000	A	継続/現状維持	A
②	中小企業等振興事業	商工観光係	236,159	A	継続/現状維持	A
③	商業活性化推進事業	商工観光係	1,800	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	中小企業の経営安定を図ることは必須であり、商工業の経営健全化を推進する上で必要な施策である。
② 有効性	A	商工業者の活性化が地域全体の活性化につながることから、有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	本施策については、構成する事務事業により効率的に実施されており、施策目的に沿った推進が図られている。
④ 公平性	A	商工業の活性化が地域全体の活性化につながることから、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	特に町民の意見を聞く場を設けていないが、関係団体等との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
現状の経営環境から判断し、継続的な支援をすることによって、一定程度の経営安定化が保たれており、地域の活性化につながっている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
景気動向にもよるが、人口減少等もあり、事業者の経営環境は今後においても厳しい事が予想されることから、継続していく必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	12
基本施策	4	商工業の振興	評価責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	2	多様なビジネス展開の促進		

1 施策の概要

基本方針	商工会等と連携し、研修会の充実や異業種交流の拡大などを進め、起業家支援や新しいビジネスモデルの発見など多様なビジネス展開につなげ、内発的な地域産業の育成、高次化を図ります。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	商工会が中心となって研修会や新たな事業展開を進めるため、地域産業の育成に努力している。また、だったんそば焼酎が3周年記念として「原酒」の製造を行った。	商工会が中心となって研修会や新たな事業展開を進めるため、地域産業の育成に努力している。また、だったんそば焼酎については、「雄武」に続き「満天きり」の販売を開始した。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	研修会や異業種交流の拡大に努めているが、中々、起業家支援や新たなビジネスモデルの展開につながっていない状況である。	研修会や異業種交流の拡大に努めているが、起業家支援や新たなビジネスモデルの展開につながっていない状況である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	異業種進出企業数					
	定義等	異業種進出企業数の累計					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		2法人	3法人	3法人	4法人	5法人
指標2	指標名	異業種連携により開発された特産品数					
	定義等	異業種連携により開発された特産品の累積数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		1品目	1品目	1品目	1品目	5品目
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	【再掲】中小企業等振興事業	商工観光係	10,000	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】地域特産品販売促進事業	商工観光係	598	B	継続/内容の見直し・変更	B
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	商工会と連携しながら起業家の支援や多様なビジネス展開につなげることは妥当であり、必要な施策である。
② 有効性	B	異業種交流の拡大や多様なビジネスの展開にはつながっていないが、地元の水産物を活用した特産品の研究開発に着手した企業もあり、概ね有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	B	現在のところ、異業種交流の拡大や多様なビジネスの展開については多少課題があるが、特産品の研究開発など、今後の展開に期待が持てる状況であり、概ね効率的であると判断する。
④ 公平性	A	特産品の開発など、将来的に地域の活性化につながることから、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	B	特に町民の意見を聞く場を設けていないが、一部の町民の意見を反映しながら進めている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
町民の町内購買促進に向けた新たなビジネス形態のあり方など、社会情勢の動向を見ながら進める必要がある。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
新たな特産品の研究開発など、多様なビジネス展開の促進を図るため、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	13
基本施策	4	商工業の振興	評価 責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	3	町民を支える商店街づくりへの支援		

1 施策の概要

基本方針	日常の食材、日用品等の購入に欠かせない地元商店の振興を図るとともに、商工会による買物環境向上事業への支援を進めます。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	人口減少と高齢化が進む中で、商店街活性化のため、関係機関と連携しながら進めている。また、平成23年度から商店街での買い物に不便さを強いられている高齢者への御用聞き、宅配事業を商工会が実施している。	人口減少と高齢化が進む中で、商店街活性化のため、関係機関と連携しながら進めている。また、継続して買い物に不便さを強いられている高齢者への御用聞きや宅配事業、更には安否確認等を商工会が実施している。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	商店街の活性化を図るため、より一層の施策が必要であり、また、移動販売推進事業については、買い物に不便さを強いられている高齢者へ更に利便性を提供する事が必要である。	商店街の活性化を図るため、より一層の施策が必要である。また、移動販売推進事業については、買い物に不便さを強いられている高齢者の利用者数の増加を含め、更に利便性を提供する事が必要である。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	サービス業就業者数					
	定義等	国勢調査等によるサービス業就業者数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						600人
実績値		599人	598人	578人	572人		
指標2	指標名	年間商品販売額					
	定義等	商業統計調査による年間商品販売額					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						140億円
実績値		（未調査）	（未調査）	（未調査）	（未公表）		
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	ふるさと夏まつり盆踊り大会補助事業	商工観光係	500	A	継続/現状維持	A
②	地域交流センター管理・清掃業務委託事業	商工観光係	5,895	A	継続/現状維持	A
③	大通り商店街協同組合街灯費補助事業	商工観光係	320	A	継続/拡充	A
④	買物環境向上事業	商工観光係	2,400	B	継続/現状維持	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	経済の低迷化が長引く中、地元購買力等を高めるための施策は、住民を支える立場として必要な施策である。
② 有効性	A	構成する事務事業ごとに工夫された活動がなされており、有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	構成する事務事業においては、企画立案・自助努力もしながら実施しており、住民ニーズもとらえた中で施策展開しており、効率的であると判断する。
④ 公平性	A	広く住民を対象とした事業展開を行っており、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、関係団体で参加者等の声を聞きながら実施しており、町としても情報共有しながら支援を行っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
商店街の活性化は、地域住民が安心して生活ができる環境でもあることから、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
住民が安心して生活する上で、商店街の活性化は必要不可欠であり、今後においても継続して実施する必要がある。なお、移動販売事業においては、さらに利便性が図られるよう取り組んでいく。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武		整理番号	14
基本施策	4	商工業の振興	評価	産業振興課長 横田 和幸	
単位施策	4	勤労者の就労環境の向上	責任者	建設水道課長 渡邊 孝司	

1 施策の概要

基本方針	就労対策における、就労環境の向上などを関係機関に働きかけていきます。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）			
	通年雇用が確保できない季節労働者を対象に冬期雇用対策を行っている。また広域的な通年雇用対策も行っている。	雇用情勢については、一部に改善が見られるものの、通年雇用が確保できない季節労働者を対象に冬期雇用対策を行っている。また広域的な通年雇用対策も行っている。			
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）			
	季節労働者の就労環境においては、一段と厳しい状況であり、通年雇用の促進増につながる施策が必要である。また、高齢者や障がい者の雇用、子育て期の就労環境向上等、多様な対策も求められている。	季節労働者の就労環境については、一部に改善が見られるものの、厳しい状況であり、通年雇用の促進増につながる施策が必要である。また、高齢者や障がい者の雇用、子育て期の就労環境向上等、多様な対策も求められている。			

2 基本施策指標

指標1	指標名	建設業就業者数					
	定義等	国勢調査による建設業就業者数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値					250人	
	実績値		249人	255人	231人	249人	
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	勤労者雇用促進事業	商工観光係	2,140	B	継続/現状維持	A
②	【再掲】町道等除草作業他環境保全事業	土木管理係	5,616	A	継続/現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	通年雇用を促進し、生活基盤の安定化を図る上で必要な施策である。
② 有効性	B	関係機関との連携により雇用環境の促進につながっていることから、概ね有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	就労環境の改善に加え、除雪や草刈など、町民の安全性にも効果があることから、効率的であると判断する。
④ 公平性	A	町民に広く周知した中で実施しており、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	B	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、関係機関と連携しながら進めている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
除排雪作業等の冬期就労対策のほか、通年雇用化意識啓発セミナーの周知などにより、本施策は一定の効果は上げているが、今後においても社会情勢を見ながら進める必要がある。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
雇用情勢については、一部に改善が見られるものの、引き続き厳しい状況であるため、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	15
基本施策	5	観光の振興	評価 責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	1	雄武観光の売り込み		税財管理課長 山崎 佳之

1 施策の概要

基本方針	流水とカニ・ホタテ・サケ・乳製品があり、斜網海岸や稚内西海岸に負けない広大な海岸酪農景観を楽しむことから、「北海道で最も北海道らしいまち」として、全国に雄武観光を売り込みます。また、都市居住者が好奇心や探究心を持つ雄武ならではの「エピソード」について情報発信します。		
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）	
	道内各イベントを通して関係団体も含め、積極的に特産品をPRしながら売り込みを図り、併せてホームページ等でも情報発信している。	道内各イベントを通して関係団体も含め、積極的に特産品をPRしながら売り込みを図り、併せてホームページ等でも情報発信している。また、観光協会を法人化し、これまでの事業を引き継ぎながら、情報発信やPR活動を行っている。	
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）	
	様々な形で情報発信しているが、観光客の増加につながっていないため、今後、旅行会社と連携を図り、観光客を呼び込むツアーなどで、情報発信を行い、観光客増加を目指す必要がある。	様々な形で情報発信しているが、観光客の大幅な増加につながっていないため、今後、旅行会社と連携を図り、観光客を呼び込むツアーなどで情報発信を行うとともに、魅力ある観光地づくりを行い観光客増加を目指す必要がある。	

2 基本施策指標

指標1	指標名	年間観光入り込み客数					
	定義等	雄武町における年間観光入り込み客数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値					15万人	
	実績値		12.5万人	11.6万人	10万人	11万人	
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	ホテル日の出岬施設整備事業	管財係	52,741	A	継続/現状維持	A
②	産業観光まつり運営助成事業	商工観光係	3,000	A	継続/現状維持	A
③	観光協会運営助成事業	商工観光係	9,620	A	継続/現状維持	A
④	地域特産品販売促進事業	商工観光係	598	B	継続/内容の見直し・変更	A
⑤	観光PR用印刷物作成事業	商工観光係	499	A	継続/現状維持	A
⑥	【再掲】ふるさと発信CI推進事業	企画調整係	393	A	継続/現状維持	A
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	雄武町の魅力である自然環境の豊かさや特産品のPRなど、全国に発信する上で必要な施策である。
② 有効性	A	構成する事務事業により雄武町のPRが図られていることから、有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	構成する事務事業によるイベントの開催やパンフレットの作成等により、広く雄武町のPRができていることから、効率的であると判断する。
④ 公平性	A	雄武観光の売り込みことが地域の活性化につながることから、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	関係団体や関係機関と連携をしながら進めているとともに、町民やその他利用者等からの意見も反映しながら進めている。

5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
各媒体での情報発信に努めているところであり、本町の魅力PRをあらゆる事業を通して行っている。雄武観光の売り込みについては、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性	継続/現状維持	継続/現状維持
<div style="text-align: center;"> </div>	継続/現状維持	継続/現状維持
観光の売り込みについては、魅力化、認知化、観光客ニーズの分析等、引き続き各種施策の継続が必要であり、より一層の情報発信に努める必要がある。	同 左	
＊今後の方向性の区分 <input type="radio"/> 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止		

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	16
基本施策	5	観光の振興	評価責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	2	雄武観光の魅力化		財務企画課長 佐々木幸博

1 施策の概要

基本方針	町民の協力を得ながら、滞在型観光の取り組みと、地域イベントの充実・連携を進めます。釣りや貝採取、自然鑑賞、農・水産加工などの「体験メニュー」について提供体制の確立をめざします。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	日の出岬を中心とした観光施設の中で情報発信をしたり、秋のイベント「うまいもんまつり」を行いながら、雄武の魅力の情報発信を行っている。	日の出岬を中心とした観光施設の中で情報発信をしたり、秋のイベント「うまいもんまつり」開催等で、雄武の魅力の情報発信を行っている。また、観光協会もフェイスブック等で情報発信を行っている。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	本物の食の魅力を提供をできる仕組みや滞在型観光の取組み、さらには既存資源や第1次産業を活かした観光の推進が課題であり、今後、旅行会社と連携を図り、観光客を呼び込むツアーなどを企画し観光客増加を目指す必要がある。	本物の食の魅力を提供をできる仕組みや滞在型観光の取組み、さらには既存資源や第1次産業を活かした体験型観光の推進が課題であり、今後、旅行会社と連携を図り、観光客を呼び込むツアーなどを企画し観光客増加を目指す必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	観光の満足度					
	定義等	まちづくりアンケートにおける観光の満足度					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						25%
	実績値		17.40%				
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	観光施設維持管理事業	商工観光係	5,342	A	継続/現状維持	A
②	メモリアル広場等維持管理事業	商工観光係	3,111	A	継続/現状維持	A
③	サンライズ王国運営助成事業	商工観光係	300	B	継続/現状維持	A
④	メモリアル広場整備事業	商工観光係	4,439	A	終了	A
⑤	日の出岬整備事業	商工観光係	3,424	B	継続/内容の見直し・変更	B
⑥	【再掲】観光協会運営助成事業	商工観光係	9,620	A	継続/現状維持	A
⑦	【再掲】雄武町オホーツク紋別空港利用促進助成事業	企画調整係	33,459	A	継続/現状維持	A
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	雄武観光の魅力あふれる事業展開を推進する上で必要な施策である。
② 有効性	B	魅力的な観光拠点のあり方及びより有効な活用方法を調査・研究することが必要であり、構成する事務事業の実施は、良好な景観を維持するためには概ね有効である。
③ 効率性	B	既存の観光資源を活かした中で、今後魅力的な観光拠点のあり方を調査・研究する具体的な進展とはなっていないものの、維持管理を専門業者に委託するなど、概ね効率性が図られている。
④ 公平性	A	地域観光振興に有益的に活用されていることから、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	B	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、関係団体との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
魅力ある観光の事業展開を図っているところであるが、体験型観光の推進を図るためには、今後においても必要不可欠な施策である。しかし、「体験メニュー」づくりの体制構築に至っていないため、今後検討を必要とするものである。	同 左	

今後の方向性

継続/拡充	継続/拡充	
各関係機関との連携を強化し町民を巻き込んだ事業展開を拡充し、「体験メニュー」づくりの検討が必要である。また、旅行会社と連携を図り、観光客を呼び込むツアーなどを企画し観光客増加を目指す必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	17
基本施策	5	観光の振興	評価責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	3	おもてなし力の強化		財務企画課長 佐々木幸博

1 施策の概要

基本方針	ホテル日の出岬の機能強化を図るとともに、日の出岬周辺の再整備、通年型土産品としての水産加工品やだったんそば関連商品等の生産増強、心づかいなどの接客マナーの向上など、ハード・ソフト両面から、雄武観光のおもてなし力を強化します。また、農家・漁家民宿の開設を積極的に支援していきます。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	本町に来町する観光客に安心して滞在してもらえる様、ホテル日の出岬を中心に満足していただくため、観光施設の整備やイベントを通じながら、おもてなしの対応をしている。	本町に来町する観光客に安心して滞在し、ホテル日の出岬を中心に満足してもらえるよう、観光施設の整備やイベントを通じながら、おもてなしの対応を心がけている。また、情報発信もわかりやすさを意識し対応している。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	恵まれた自然環境をベースにおもてなし力の強化や食を通じた農家・漁家民宿の開設には至っていない。また、町外向けの積極的な観光情報提供も「おもてなし」の強化につながることから、その充実強化に努めることも重要である。	オホーツクサイクリング等の定番イベントでは、歓迎ムードが高くおもてなし力が発揮されているが、イベント以外での「おもてなし」の定着には未だ至っておらず、全体的にはおもてなし力がやや不足している。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	年間観光入り込み客数					
	定義等	雄武町における年間観光入り込み客数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		12.5万人	11.6万人	10万人	11万人	15万人
指標2	指標名	観光イベント参加者数					
	定義等	町内で開催される観光イベントの参加人数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		3.5万人	4万人	3.3万人	3.2万人	4万人
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	オホーツクサイクリング事業	商工観光係	2,447	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】地域間交流推進事業	企画調整係	1,939	A	継続/現状維持	A
③	【再掲】武雄市児童交流事業	生涯教育係	2,653	A	継続/現状維持	A
④	【再掲】観光協会運営助成事業	商工観光係	9,620	A	継続/現状維持	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	観光施設における接客マナー等の向上に留意しており、一大イベントであるオホーツクサイクリング等においても参加者に不愉快な思いをさせないよう町民をはじめ職員等にも意識が定着してきており、妥当と判断する。
② 有効性	B	おもてなし力の強化を図ることは、本町の魅力向上にもつながり、リピーターの確保等の効果も期待できるが、町内全体に浸透しておらず、課題がある。
③ 効率性	A	おもてなし力の強化を図るために、現時点では多額の経費を必要としておらず、効率的であると判断する。
④ 公平性	A	おもてなし力の強化により観光振興を図ることは、地域の活性化に寄与するものであり、地域経済への波及効果等も期待できることから、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	B	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、イベント開催等においては、「おもてなし」を意識した議論が行われており、一定の反映が行われている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
接客マナーの向上等のソフト面は一定程度定着されているが、多様な客層に対する体制づくりに課題があるほか、農家・漁家民宿等の開設支援には至っていない。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
おもてなし力の強化により、観光振興を図る事は、町の活性化に寄与するものであり、今後においても普段からの「おもてなし」定着の促進を図り、併せて、今後においては農家・漁家民宿等の開設に向けて検討する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止